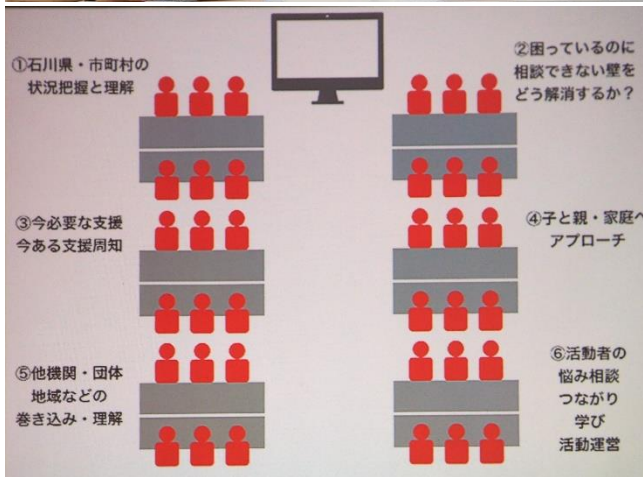


子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 石川 報告書



2018年7月15日（日）、「子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 石川」を石川県女性センター大会議室で開催しました。会場には、第一部 61 人、第二部 32 人、合計 62 人が、石川県内の北は輪島市から西は加賀市など県内各地からご参加いただき、県外からも参加されました。

第一部では、村井琢哉・副代表理事のあいさつに続いて、来賓挨拶を片岡穰・石川県健康福祉部長からごあいさつをいただきました。パネルディスカッションでは『今、石川で必要な子どもの貧困対策は』をテーマに、パネリストには、立川孝紀・北陸学院大学人間総合学部子ども教育学科4年、西村依子・NPO 法人シェきらり代表、野村正子・一般社団法人おやこハグネット代表、原範子・はっぴーばんく代表が登壇し、コーディネーターは、森山治・金沢大学地域創造学類教授が務めました。第一部の司会は、石川昴・あすのば学生理事が進行しました。



パネルディスカッションは、七尾市で活動している原さんから、現在の問題点も含め、子どもたちと向き合う難しさを話していただきました。続いて野村さんは、加賀市山代温泉地区で起きた中学校での問題をきっかけに、10年前から町の人たちができることから取り組み、大学生・高校生の若い力も借り、取り組んできた実績を報告されました。経験を踏まえ、昔からあった地域の人間関係の再構築が大切で、「ゆるりとした新たな関係作りが必要」と提言されました。西村さんは、今年2月に20数年ぶりに開設した女性向けの自立支援ホームの立ち上げ経緯やこれまで弁護士として携わってきた親の離婚訴訟の中で、子どもたちが抱える困難さを伝えていただきました。

第二部は、児童養護施設出身の立川孝紀さん

と石川昂さんの若者のトークセッションからスタート。二人の児童養護施設での生活や困りごとについての体験談に、参加者は耳を傾けました。村井琢哉・副代表理事がコーディネーターを務め、第一部のパネルディスカッションと二人の若者のトークを受け、「子どもの夢を広げ支えるしくみ作り」「子と親へのアプローチ」「地域を巻き込むには」「つながる方法は」などテーマごとにグループに別れ、意見交換が活発になされ、各グループの発表を行いました。

参加者からは、「各分野、各地域で活躍されている方の話が聞けて、とても為になりました。当事者・支援者・研究者の方のバランスが良い会だと感じました。ハード面ではなく、ソフト面での話が多く、自分たちでも少し考えやすい論題でした。地域に根ざした対策もとても大切だと感じました（20代男性）」。

「貧困は見えにくいことが多く、ネットワーク作りが大事である事、つながりが大切であると痛感しました。夢をあきらめない、夢を広げ支える支援ができるように仕組み作りができたらと思いました（40代女性）」。「子どもの貧困の部分的や個人的に支援も大切だと思いますが、本日、総合的に思ったのが、家族支援、家族単位での支援が重要ではないかと思いました（60代女性）」。「ネット文献では全国的な取り組み状況しか知ることができないため、実際に活動している方のお話が聞けて良かった。子どもの貧困は見えにくいので、このような啓発活動を通して、地域の人たちに知ってもらうことが大切だと思います（20代女性）」などの感想が寄せられました。



マスコミ各社の取材報道は、事前告知記事を北陸中日新聞が掲載。当日は、北陸中日新聞、北國新聞、毎日新聞3社が、翌朝刊で開催記事を掲載しました。石川テレビが、パネリストの立川孝紀さんの特集番組を兼ねて密着で取材しました。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 石川】

日時：2018年7月15日（日）第一部 10時～12時30分 第二部 13時30分～16時

場所：石川県女性センター大会議室（金沢市三杜1-44）

主催：公益財団法人あすのば

後援：内閣府・穴水町・石川県・石川県教育委員会・石川県社会福祉協議会・内灘町・加賀市
金沢市・金沢市社会福祉協議会・かほく市・川北町・小松市・志賀町・珠洲市・津幡町
中能登町・七尾市・能登町・野々市市・能美市・羽咋市・白山市・宝達志水町・輪島市

助成：公益財団法人キリン福祉財団

参加者：第一部 61人 第二部 32人 合計 62人（延べ 93人）